

タクミニナ *Eucharilda sinensis* (Fischer)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も日間賀島南沖水深2から10mの砂泥底より、死殻をわずかに採集したが、生貝は採集できなかった（木村,1996）。和田ほか（1996）では、現状不明（絶滅寸前）とランクされている。

【形態】

殻高約1cmの細長い円錐型の貝。螺層の周辺には強く角張った螺肋が4本並ぶ。



南知多町日間賀島南沖水深5-6m(ドレッジ), 1994年10月11日, 木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】

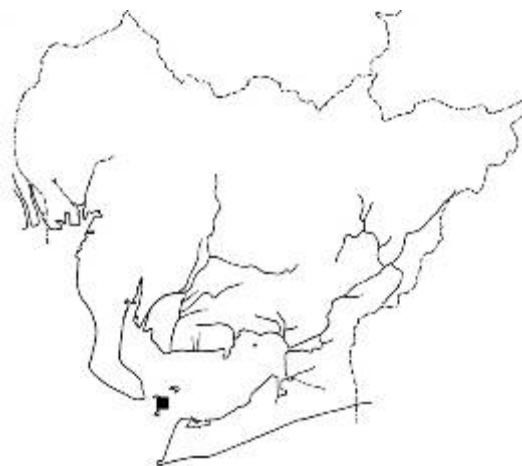
【県内の分布】

上述したように県内では近年生貝が採集されてなく、死殻も稀産。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸沿岸、熱帯インド、西太平洋。国内では房総半島以南に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では、近年生貝を採集できない。死殻でさえ稀であり、危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

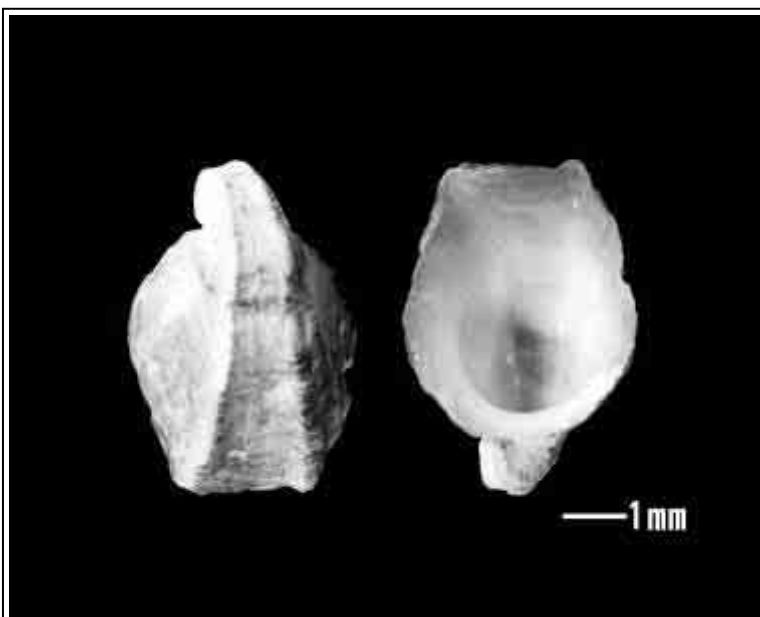
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

イソチドリ *Amathina tricarinata* (Linnaeus)**【選定理由】**

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ二枚貝類（タイラギ、イタボガキ）に外部寄生する。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も日間賀島南沖水深 2 から 10m の砂泥底より、死殻をわずかに採集したが、生貝は採集できなかった（木村,1996）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 1.5cm の笠型の貝。殻頂部から前縁部にかけて 3 本の強い肋が走る。殻は白色であるが、黄褐色の厚い殻皮に覆われる。



南知多町日間賀島南沖水深 5-6m(ドレッジ), 1994 年 10 月 11 日, 木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】**【県内の分布】**

上述したように県内では近年生貝が採集されていなく、殻皮の残った比較的新鮮な死殻が日間賀島南沖より数個体採集されたにすぎない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では房総半島以南に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】 の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では、近年生貝を採集できない。宿主であるタイラギ、イタボガキも著しく減少しているので、危機的な生息状況といえる。近年採集されるタイラギの殻上には移入種のシマメノウフネガイの大型個体が多く付着しているので、種間競争の結果、同じ様な場所を生息場所とする、イソチドリガイが減少した可能性がある。

県内分布図

**【保全上の留意点】**

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

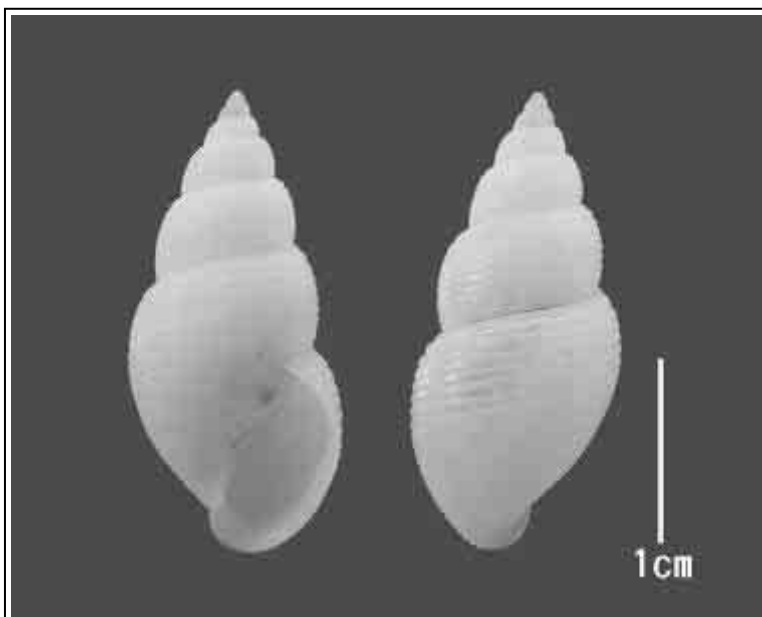
マキノノガイ *Leucotina diana* (A.Adams)

【選定理由】

本種は内湾から外洋にかけての潮下帯から水深 50m ぐらいの砂泥地にすむ。二枚貝類に外部寄生するとされているが宿主は不明 (和田ほか,1996)。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も日間賀島南沖水深 2 から 10m の砂泥底より、死殻をわずかに採集したが、生貝は採集できていない (木村,1996)。和田ほか (1996) では、希少とランクされている。

【形態】

殻長約 3cm の紡錘型の貝。殻はやや厚いが脆い。殻表には明瞭な螺肋が多数めぐらされる。殻は白色であるが、黄褐色の薄い殻皮に覆われる。



渥美外海水深 100-120m(底引き網), 1997 年 10 月 3 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

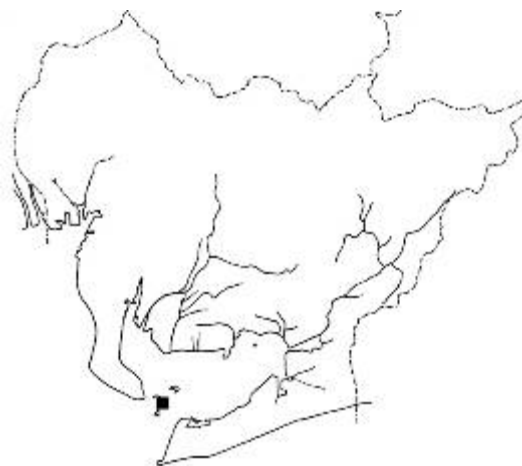
【県内の分布】

上述したように県内では近年生貝が採集されず、殻皮の残った比較的新鮮な死殻でさえもほとんど採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。東北地方以南九州にまで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では、近年生貝は採集されていない。もともと普通種ではなかったが、近年伊勢湾湾口部から外洋で操業する底引き漁船でも死殻ですらほとんど採集されず、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ウツセミガイ *Akera soluta* Gmelin

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底、アマモ場にすむ。戦前は比較的普通に見られたとされているが、近年全国的に産出の報告はない(和田ほか,1996)。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。またアマモ場も非常に減少している。本種については標本調査の結果、1978年に幡豆郡一色町沖のアマモ場より採集された標本が見いだされたのみで、近年の調査では死殻すら確認されていない(木村,1996:木村,2000)。和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。

【形態】

殻長約4cm程度の樽型の貝で殻は薄く脆い。縫合部は切れ込み蓋はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内では現在全く生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、オーストラリア。房総半島以南に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

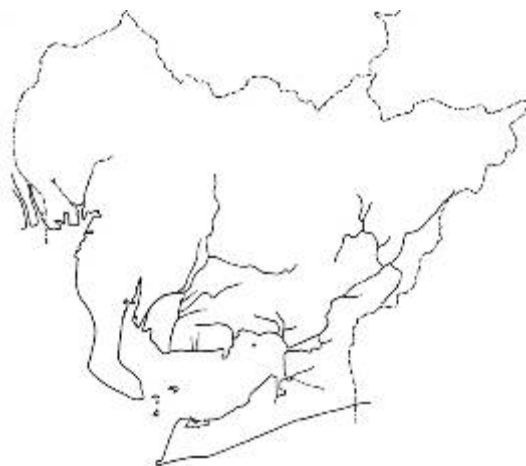
【現在の生息状況／減少の要因】

現在生息は確認できない。死殻ですら採集されない。絶滅した可能性もある。



幡豆郡一色町沖, 1978年, 採集者不詳

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ナラビオカミミガイ *Auriculastra duplicata* (Pfeiffer)**【選定理由】**

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地内に生息する。本県ではアシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。特に本種の生息数は少なく、県内で最もアシ原湿地の環境が保全されている汐川干潟でも近年(1998年)以来生息が確認されていない。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 8mm の小型種。殻は卵形で殻表は黄色、平滑で光沢が強い。



汐川干潟, 1988年5月1日, 木村昭一 採集

【分布の概要】**【県内の分布】**

上述したように県内での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では汐川干潟1カ所のみで記録されたが、1998年以来生息を確認していない。2001年の調査で矢作川河口域に1カ所新たに生息地を確認したが、生息個体数はわずか2個体であった。

【世界及び国内の分布】

日本と中国南部。国内では三河湾、伊勢湾、英虞湾(河辺,2000)、瀬戸内海、有明海、沖縄本島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなアシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。生息地が残されていても個体数が激減している原因については不明である。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質を保全する必要がある。

【特記事項】

本県は本種の分布の東限である。

【引用文献】

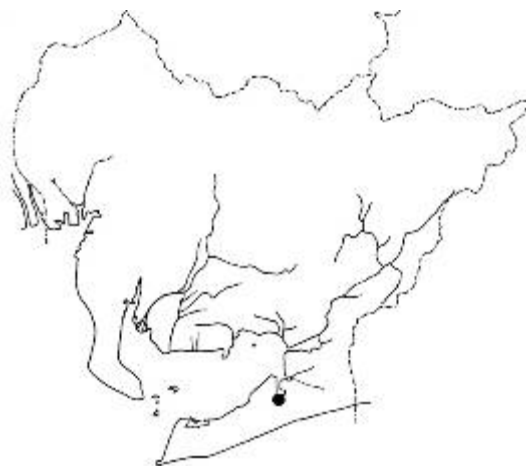
河辺訓受, 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. かきつばた, 26: 21-24. 名古屋貝類談話会.

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



キヌカツギハマシイノミガイ *Melampus (Melampus) sincaporensis* Pfeiffer

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地内に分布する。本県ではアシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。健全な個体群は汐川干潟の狭い範囲でのみ保存されている。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 1cm、殻は卵形で殻表は褐色の殻皮で覆われる。殻には褐色から黒色の色帯があり、その幅や本数は個体によって異なる。



汐川干潟, 1988 年 5 月 1 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）は三河湾の 2 カ所で生息を確認し、早瀬（1998）は伊勢湾奥で 1 カ所生息を確認した。しかし、そのうちの 1 カ所は 1995 年の漁港整備工事によって生息地が消失した。また、早瀬（1998）では生息確認個体数が 2 個体で、この生息地での本種の絶滅が危惧される。2002 年に渥美半島三河湾流入河川河口部で新たに生息地を確認したが、生息数は非常に少なかった（木村・木村,2002）。

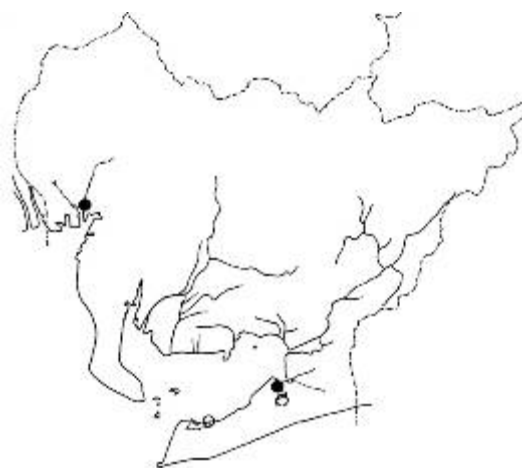
【世界及び国内の分布】

日本と東南アジア。国内では三浦半島（絶滅）以南、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海、西表島（和田ほか,1996）に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなアシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全する。

【特記事項】

本県は本種の分布の東限である。

【引用文献】

- 早瀬善正, 1998. キヌカツギハマシイノミガイ庄内川河口に生息. かきつばた, 24: 12. 名古屋貝類談話会.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一・木村妙子, 2002. 新堀川河口塩性湿地の貝類相. かきつばた, 28: 13-14. 名古屋貝類談話会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

シコロエガイ *Porterius dalli* (Smith)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮間帯から潮下帯の転石に足糸で付着して生息する。しかし、近年の生息記録はほとんどなく、わずかに山口県徳山市付近で生息が知られるのみである（和田ほか,1996）。本県でも三河湾湾口部の日間賀島南岸に比較的良好に保全された転石地があり、詳細な調査を行ったが、本種は生貝 1 個体が採集されたにすぎない（木村,1995）。1998 年よりの調査の結果、県内では生貝はおろか、死殻すら採集されていない。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 3cm、殻は前後に長い楕円形で、両端は丸い。殻はやや厚く、膨らみは弱い。殻表は厚い殻皮で覆われ、殻皮は同心円状に毛羽立つ部分と栓皮状の部分交互にある。



南知多町日間賀島南岸水深 2m(ダイビング), 1994 年 7 月 2 日,
木村昭一 採集

【分布の概要】

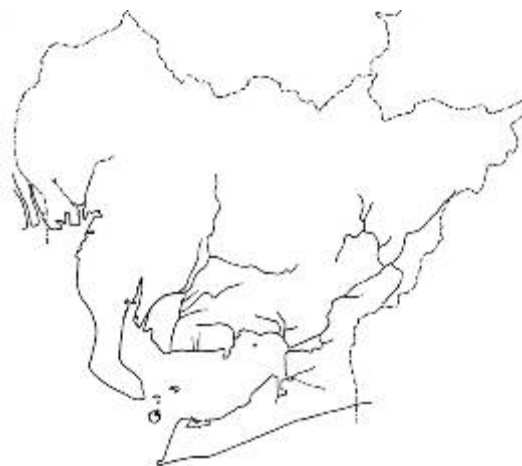
【県内の分布】

上述したように、現在では生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部以南瀬戸内海まで分布するとされているが、近年生息が確認されている場所は極めて少ない。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾域の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。現在死殻も採集されず、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ヤマホトトギス *Musculus japonica* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部の水深5mから10mの砂泥底より生貝が採集されたが、個体数はきわめて少ない（木村,1996）。和田ほか（1996）では危険にランクされている。

【形態】

殻長約2cm 後方に広がる長方形の扁平な貝で殻は非常に薄い。緑褐色の波状の小班が全面にある。殻皮は平滑で光沢が強い。



南知多町日間賀島南沖水深10m(ドレッジ), 1995年3月15日,
木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部の潮下帯の砂泥底より小型の生貝が採集されたが、個体数はきわめて少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

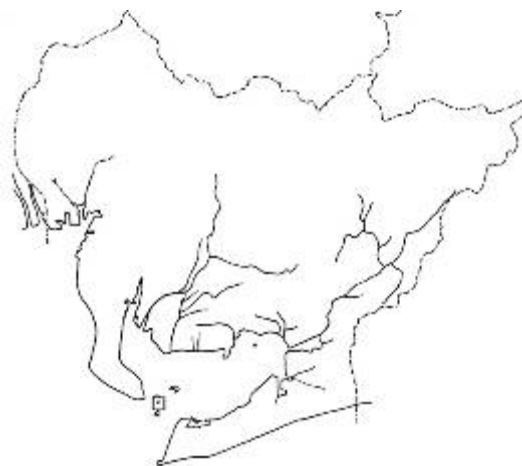
【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられ、現在は危機的な生息状況である。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

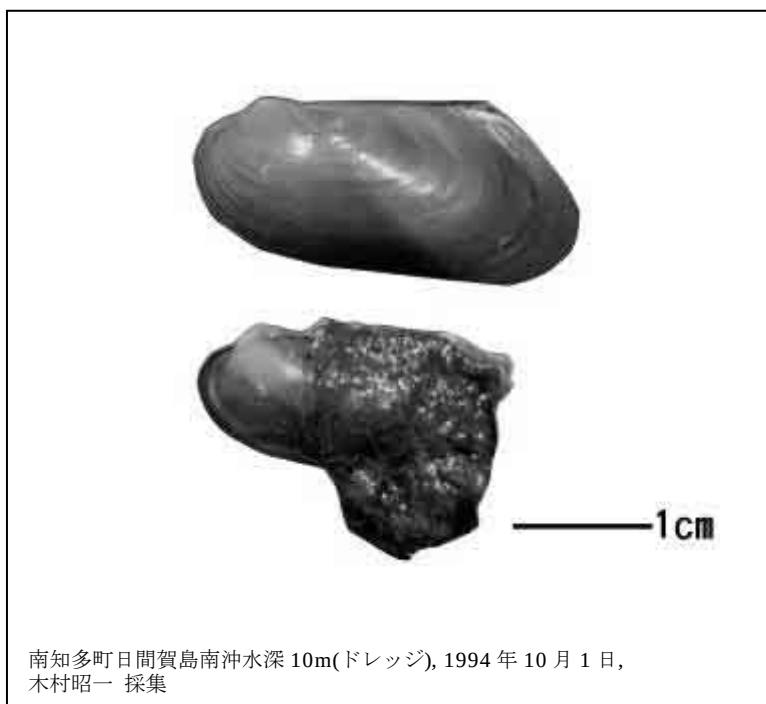
ツヤガラス *Modiolus elongatus* (Swainson)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖の水深 5m から 20m の泥底より採集されるが、個体数は非常に少ない（木村,1996：木村,2000）。和田ほか（1996）では危険にランクされている。

【形態】

殻長 8cm を越える種であるが、県内で採集される個体は殻長約 3cm 程度。後方に広がる長方形の貝で殻は非常に薄い。殻皮は薄く栗色で光沢が強い。生時には泥をかむった繭状の巣に入っている。



【分布の概要】

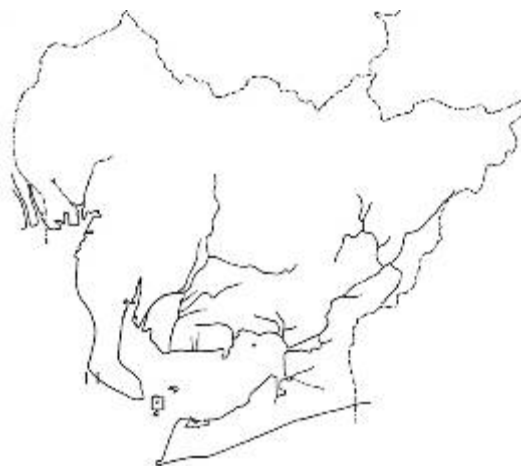
【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖の潮下帯の泥底に分布するが個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では陸奥湾以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

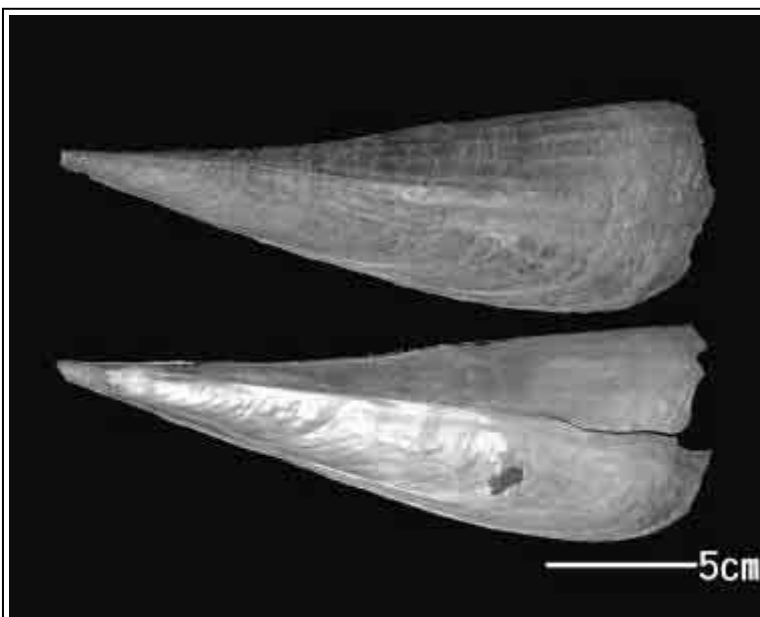
ハボウキガイ *Pinna bicolor* Gmelin

【選定理由】

本種は外洋に面した内湾の潮通しの良い潮下帯砂泥底に突き刺さるように深く埋没し、後端だけを出してすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種はかつては三河湾湾口部、伊勢湾知多半島周辺に生息していたようであるが（日間賀島漁協聞き取り調査：原田一夫氏私信）、近年死殻すら採集できない。和田ほか（1996）では危険にランクされている。

【形態】

殻長 20cm を越える大型種。細長い三角形の殻で、茶褐色から黒褐色。殻はやや厚いが脆い。



篠島沖, 1962 年 7 月, 原田一夫 採集

【分布の概要】

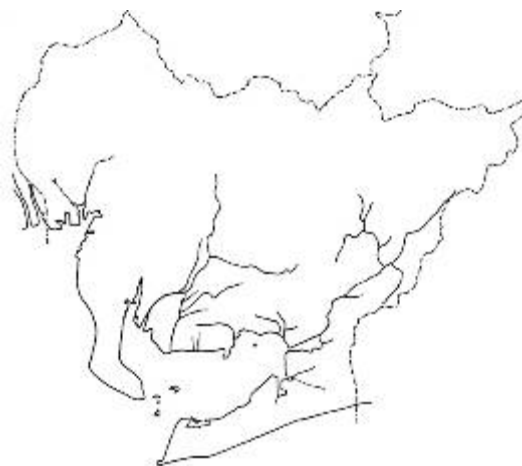
【県内の分布】

上述したように近年生息が確認されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられる。大型種にもかかわらず死殻さえ採集されないのが、危機的生息状況である。県内では絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

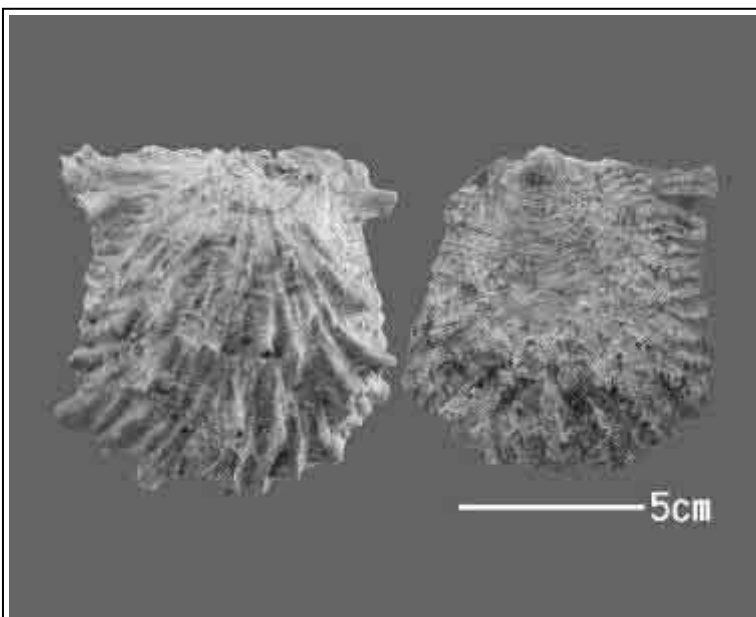
【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke

【選定理由】

本種は内湾の浅海域(潮下帯)の砂泥底に生息する大型のカキ類で、かつては食用にするほど多産したが、近年分布全域で生息数が激減し、黒住(1999)によると東京湾では1980年代以前に激減もしくは絶滅し、瀬戸内海東部では1980年代中頃に激減もしくは絶滅した。本県でも内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾湾口部で底引き網によって大量に採集され、食用にされていた(愛知科学教育センター, 1967)が、知多湾における生貝の採集記録(中山, 1980)を最後に全く生貝が採集されていない。近年では古い死殻さえ採集が難しい。和田ほか(1996)では危険にランクされている。



南知多町日間賀島沖(底刺し網), 1992年4月18日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長10cmを越える大型種。ほぼ方形で殻は厚い。左殻はやや膨れ不規則な分岐肋が生じる。右殻はやや扁平で、栓皮葺き状。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。古い死殻でさえ採集することは難しい。絶滅した可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられるが、著しい減少の要因については不明。

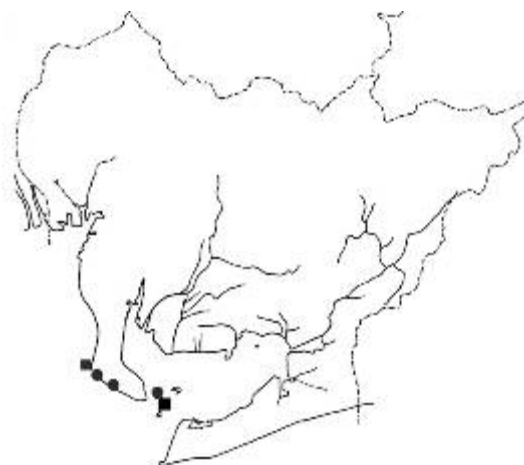
【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

県内分布図



【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
黒住耐二, 1999. イタボガキは絶滅危惧種?. 九州の貝, 52: 23-31. 九州貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

イセシラガイ *Anodontia stearnsiana* (Oyama)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の泥底に深く潜って生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では死殻が少数採集されるが、近年生貝の採集記録がない(中山,1980; 木村,1996; 木村,2000)。和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。

【形態】

殻長約5cmで球形に両殻共によく膨れる。殻は薄く脆い。殻は黄白色であるが、生きている時や新鮮な死殻には茶褐色の薄い殻皮がある。



南知多町日間賀島南沖水深10m(ドレッジ), 1995年3月15日,
木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。国内では北海道から沖縄まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

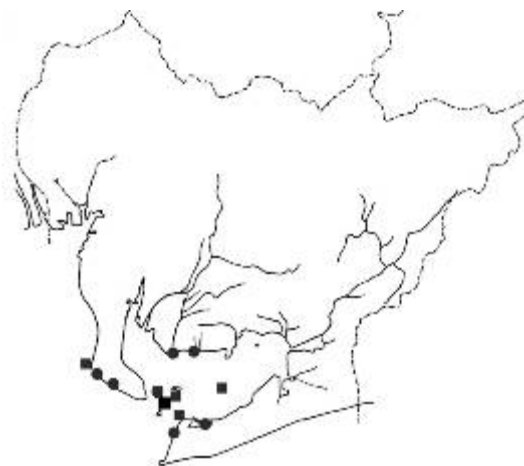
【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

県内分布図



【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

イソカゼガイ *Basterotia gouldi* (A.Adams)

【選定理由】

本種は内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の干潟から潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部では死殻が少数採集されるが、近年生貝が採集されていない(木村,1996)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。

【形態】

殻長約 7mm で卵形の貝で白色、殻はやや厚い。殻頂は前方へ寄り、前へ傾く。



南知多町日間賀島南沖水深 5-6m(ドレッジ), 1994 年 10 月 11 日,
木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。合併の標本(2枚の殻がそろった標本)は死殻でさえ採集することが難しく(木村,1996)、絶滅した可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島以南から九州まで分布する。

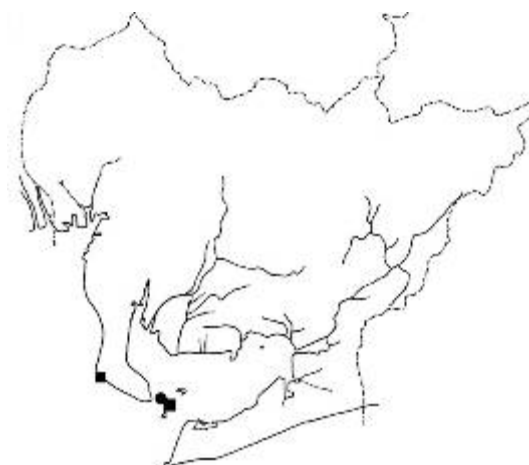
【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ヤチヨノハナガイ *Raeta (Raetina) pellicula* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で死殻が採集されたが、生貝が採集されない(中山,1980:木村,1996:木村,2000)。和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。

【形態】

殻長約4cmで殻は白色で薄くやや膨らみ、殻皮は光沢が強い。前縁は丸く、後縁は狭く裁断状。内湾の貧酸素層の発達する海底に多産するチヨノハナガイと近似するが、本種は殻が大型で、輪肋が多く密で、光沢が強いので、区別は明確である。



南知多町日間賀島南沖水深10m(ドレッジ), 1995年3月15日, 木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】

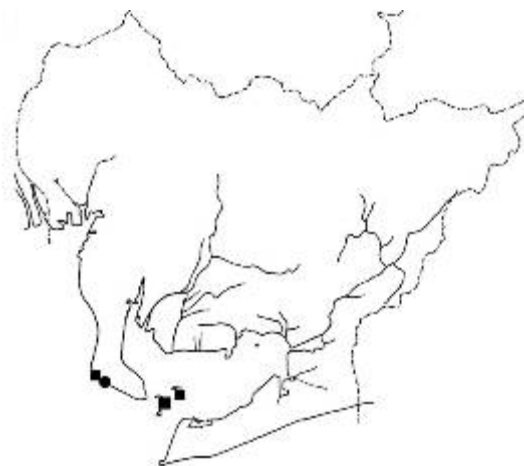
【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。死殻でさえ採集することは難しい。絶滅した可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では房総半島以南に分布する。瀬戸内海にはかつて広く分布していたが最近の記録は少ない(和田ほか,1996)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。生貝が採集されないの、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

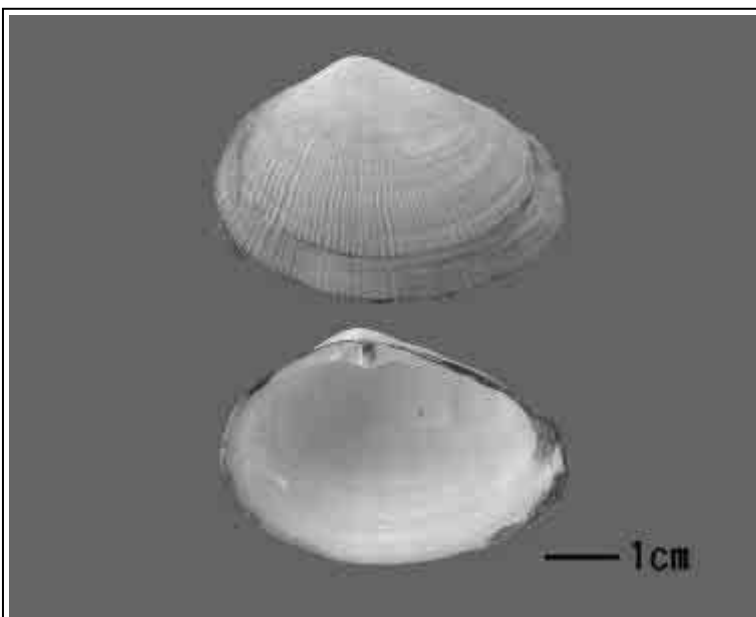
ユキガイ *Meropesta nicobarica* (Gmelin)

【選定理由】

本種は内湾の干潟に生息する種で、近年分布全域で激減し、現在では山口県、奄美大島、沖縄県名護市、西表島で生息が確認されているがいずれの産地でも稀である（和田ほか,1996）。本種は県内にもかつては生息していたと考えられるが、現在死殻すら採集できない。和田ほか（1996）では危険にランクされている。

【形態】

殻長 4cm、殻は卵形で薄く、後端は開く。殻表はやや強い放射肋で被われる。殻は白色で生時には淡褐色の薄い殻皮を被る。



三重県英虞湾, 2001年7月5日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

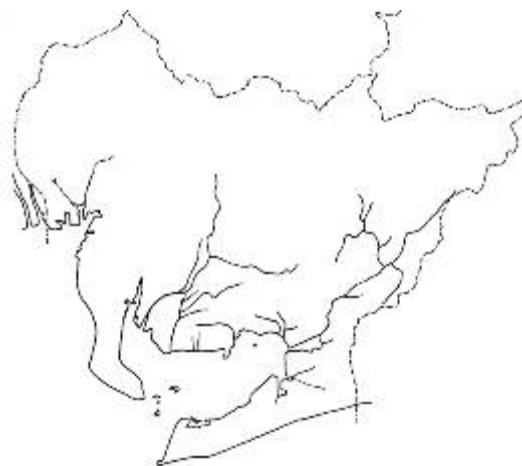
【県内の分布】

上述したように、現在死殻も採集できない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、西太平洋。かつては国内では房総以南から琉球列島まで広く分布するとされていたが、現在では上述の通りの限られた水域にのみ分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減し、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

アリソガイ *Coelomactra antiquata* (Spengler)

【選定理由】

本種はやや外洋に面した潮下帯の細砂底に生息する。本県では内湾域から湾口部にかけての潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾湾口部から渥美外海で底引き網によって普通に採集されていた(愛知科学教育センター, 1967)が、現在では伊良湖岬から渥美半島外海側で打ち上げられた古い死殻が少数採集されるが、生貝は採集されていない。和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。

【形態】

殻長約12cmと大型、殻は亜三角形でやや膨らむ。殻は薄く、殻頂部は淡紫色で他の部分は白色。



渥美半島赤羽根沖(渥美外海：小型底引き漁), 1984年4月23日,
蒲郡市立竹島水族館所蔵

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。死殻でさえ採集することは難しい。絶滅した可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本、中国南部、東南アジア。国内では相模湾以南から九州まで分布する。和田ほか(1996)で“三河湾”大淀周辺がかつての多産地としてあげられているが、伊勢湾(三重県側)の誤り。

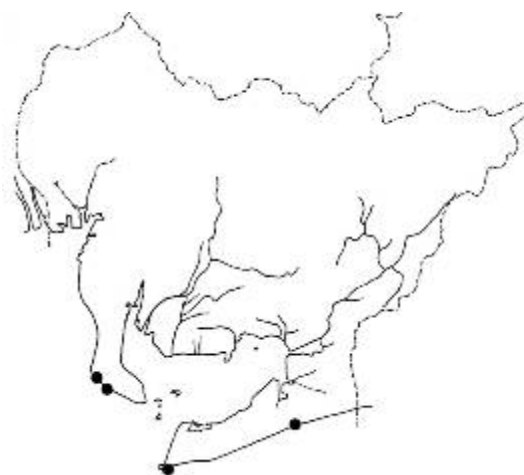
【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。特に本種は水質汚濁に弱い種とされている(和田ほか, 1996)。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

オオモモノハナ *Macoma praetexta* (Martens)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で死殻が打ち上げられていたが、近年はほとんど採集することができない。近年3年間で知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村,2000)。和田ら(1996)では危険とランクされている。



伊勢湾湾口部水深12m(三重大学勢水丸ドレッジ), 1997年3月28日, 木村昭一 採集(死殻)

【形態】

殻長約3cmで、殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、桃色で成長脈に沿って色彩の濃淡がある。後背縁は張り出して後端はとがる。

【分布の概要】

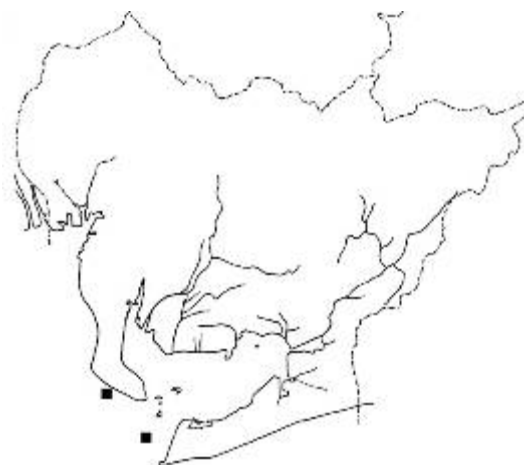
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、生貝が採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では北海道南西部から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。近年生貝が採集されない。また、死殻もほとんど採集できない。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

アワジチガイ *Macoma candida* (Lamarck)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種もかつては三河湾湾口部で新鮮な死殻が採集されたが(原田一夫氏私信)、近年は死殻すら採集することができない。近年3年間で知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、死殻さえ採集されなかった(木村,2000)。和田ほか(1996)では現状不明にランクされている。

【形態】

殻長約4cmで、殻は前後に長い長楕円形。殻長は後端により後端は尖る。殻はやや薄く、鈍いクリーム色で、膨らみは弱く扁平。



高知県土佐湾水深50-80m(底引き網), 2000年12月7日,
木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】

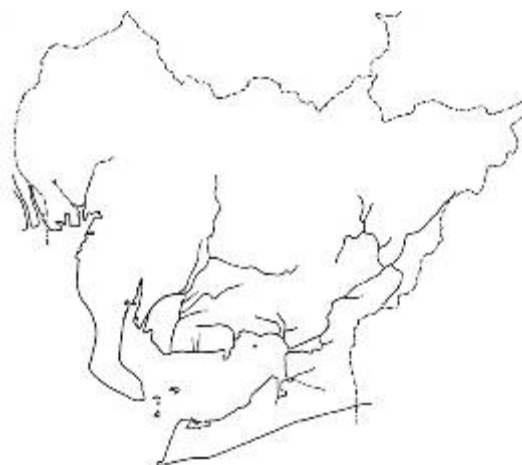
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、近年死殻さえ採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国。国内では房総半島から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと多産した種ではないが、上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。近年死殻の採集記録もない。危機的生息状況といえ、絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

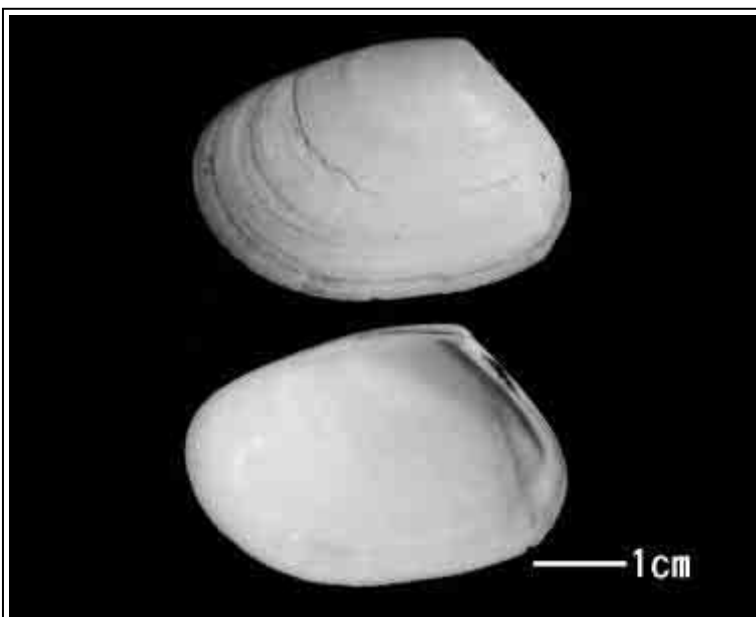
アオサギガイ *Psammotreta (Pseudomitis) praeupta* (Salisbury)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種は知多湾南部で底引き網によりわずかな死殻が採集されて以来 (中山,1980)、採集記録がない。近年、三河湾湾口部、知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、死殻も採集できなかった (木村,1996：木村,2000)。和田ら (1996) では危険とランクされている。

【形態】

殻長約 4cm で、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、白色で殻頂部はやや青みを帯びる。後背縁は短く直線的。



三河湾湾口部(底引き網), 1963 年 9 月, 原田一夫 採集

【分布の概要】

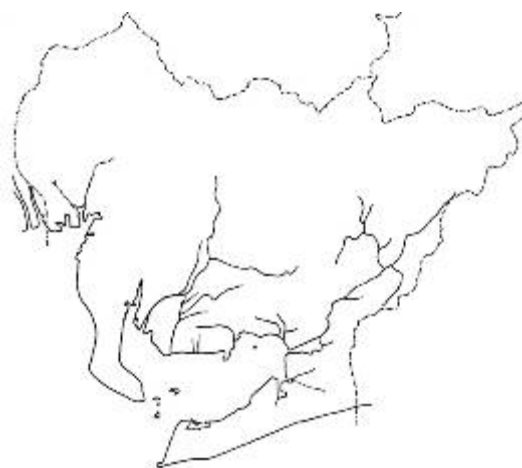
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、近年では死殻すら採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では房総半島から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】 の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。近年死殻さえ採集されず、危機的生息状況である。絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

オチバガイ *Psammotaea virescens* (Deshayes)

【選定理由】

本種は内湾河口域の砂泥干潟に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は瀬戸内海の一部に健全な生息場所が確認されているほかは、分布全域で生息場所が減少している（和田ほか,1996）。伊勢湾の三重県側では比較的普通に死殻が打ち上げられ、健全な個体群も確認されている。本県側の伊勢湾や三河湾では、死殻の確認も稀で、矢作川河口（川瀬,2002）、蒲郡市三谷地先人工干潟（木村,2005）で少数の生貝採集記録がある。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約4cmで殻は前後に長い楕円形。殻はやや薄く、殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、近年生息が確認されているが、生息地点数、生息数とも著しく少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋。国内では東京湾以南九州南部まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県（2000）では絶滅生物にランクされている。

【引用文献】

- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.
川瀬基弘, 2002. 矢作川河口域における干潟の底生動物相. 矢作川研究, 6: 81-98.
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, 31: 29-31. 名古屋貝類談話会.



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005年7月21日, 木村昭一 採集

県内分布図



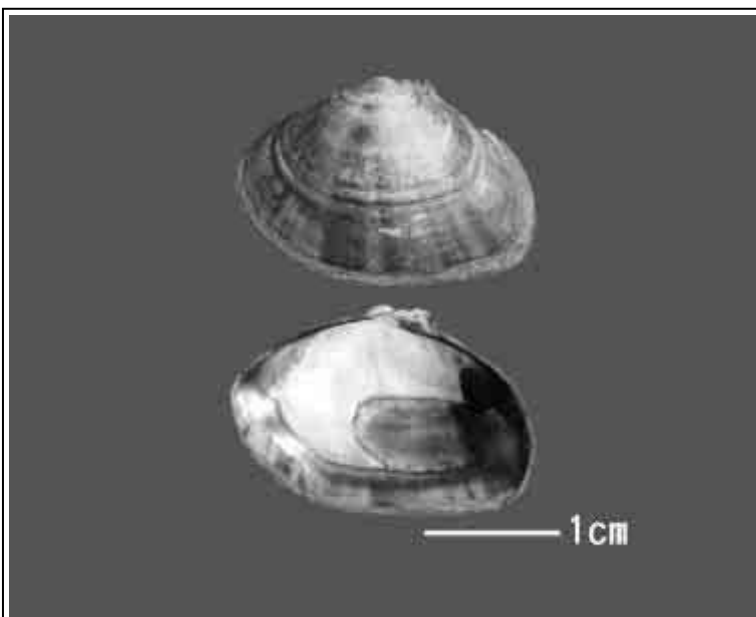
ハザクラ *Psammotaea minor* (Deshayes)

【選定理由】

本種は内湾河口域の砂泥干潟に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は玄界灘、鹿児島湾の一部に健全な生息場所が確認されているほかは、分布全域で生息場所が激減している（和田ほか、1996）。近年、県内では生貝はおろか、死殻すら採集されていない。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 3cm で殻は楕円形。殻は薄く、殻表には不規則な紫色の放射彩条がある。生きている時には褐色のやや厚い殻皮に覆われている。



静岡県浜名湖, 2001 年 7 月 1 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

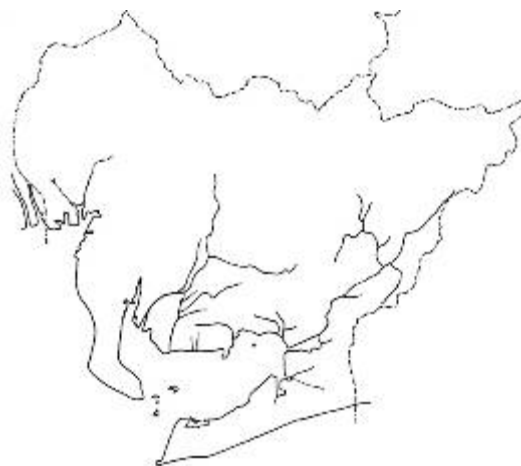
【県内の分布】

上述したように、近年生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯西太平洋。国内では房総半島以南九州南部まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。現在死殻も採集されず、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

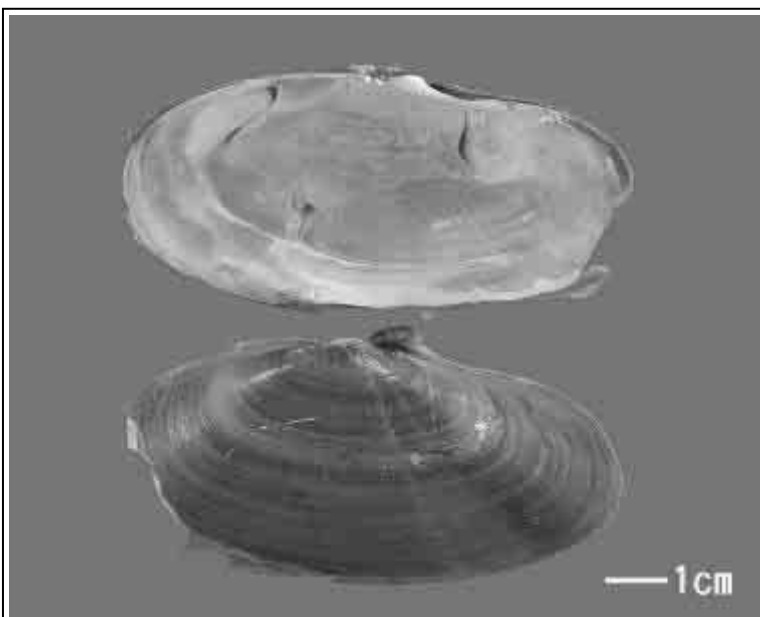
【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ムラサキガイ *Soletellina diphos* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種はかつては普通に生息していた浜名湖や博多湾では絶滅し、分布全域で生息場所が激減し、現在健全な個体群が保存されている場所は知られていない(和田ほか,1996)。伊勢湾の三重県側では1980年代半ばまでは死殻が打ち上げられて採集される場所があったが、現在、そのような場所は確認されていない。本県側の伊勢湾や三河湾でも近年生貝はおろか、死殻すら非常に稀である。近年蒲郡市三谷地先人工干潟)で1個体のみ生貝が採集された。和田ほか(1996)では、絶滅寸前とランクされている。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2006年3月18日, 浅井 功 採集

【形態】

殻長約8cm、殻は大型で前後に長い楕円形。殻はやや薄く、濃い紫色。殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、近年生息が確認できない。大型種で殻は目立つが、死殻さえ稀である。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では房総半島以南九州南部まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

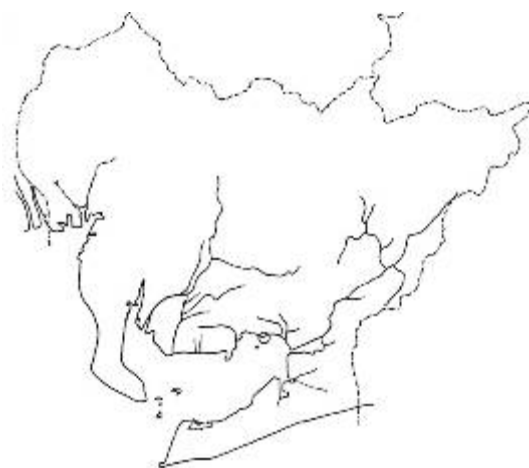
【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも著しく減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

県内分布図



【特記事項】

千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。

【引用文献】

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

フジナミガイ *Soletellina boeddinghausi* Lischke

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は分布全域で生息場所が減少し、現在健全な個体群が保存されている場所は瀬戸内海の一部しか知られていない (和田ほか, 1996)。伊勢湾の三重県側では 1980 年代半ばまでは死殻が打ち上げられて採集される場所があったが、現在、そのような場所は確認されていない。本県側の伊勢湾や三河湾でも近年生貝はおろか、死殻すら採集されていない。和田ほか (1996) では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 10cm、殻は大型で楕円形。殻はやや厚く濃い紫色と薄い紫色のだんだら模様。殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。



三重県津市(伊勢湾), 1982 年 10 月 5 日, 木村昭一 採集(打ち上げ死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、近年生息が確認できない。大型種で殻は目立つが、死殻さえ採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。国内では房総半島以南九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。現在死殻も採集されず、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県 (2000) では絶滅生物にランクされている。

県内分布図



【引用文献】

- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ダンダラマテガイ *Solen kurodai* Habe

【選定理由】

本種は清浄な干潟や潮下帯の細砂底に生息する。本種は新種記載時に三河湾産の標本が使用された(Habe, 1964)が、それ以来県内において生息に関する記録はない。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少し、潮下帯の環境も著しく悪化している。従って、本種の生息地、生息数とも著しく減少し、絶滅した可能性もある。知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、本種は死殻さえ採集されていない(木村, 2000)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約5cmで殻は前後に著しく延長した長方形で、膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状。殻の後部には後端と平行な赤色の条線がある。



神奈川県逗子海岸, 2005年12月26日, 木村昭一 採集(打ち上げ生貝)

【分布の概要】

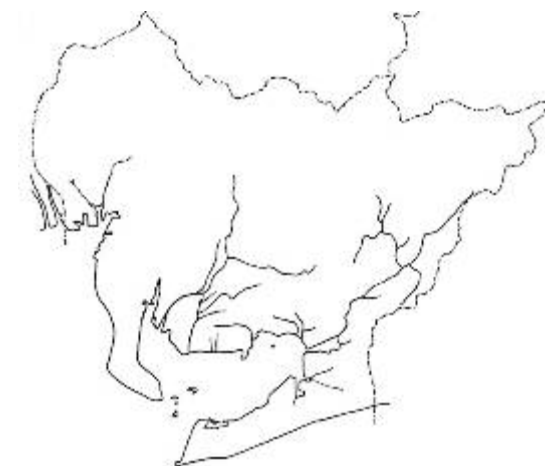
【県内の分布】

上述したように、本種の生息する可能性のある海域を2006年、2007年にもドレッジで調査したが、死殻すら採集されない。県内では絶滅した可能性も高い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。現在死殻すらほとんど採集されず、危機的生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- Habe, T., 1964. Razar Shells in Japan and its Adjacent Areas. Bulletin of National Science Museum 7 (1): 7-16.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

バラフマテ *Solen roseomaculatus* Pilsbry

【選定理由】

本種は内湾の干潟の下部から潮下帯の砂泥底に潜って生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少し、潮下帯の環境も著しく悪化している。従って、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種も近年はほとんど死殻さえ採集することが難しい。近年3年間で知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の古い死殻が採集されたにすぎない（木村, 2000）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約5cmで殻は前後に著しく延長した長方形で背中側にそる。膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状。殻表全面に赤色の小班が散在する。



【分布の概要】

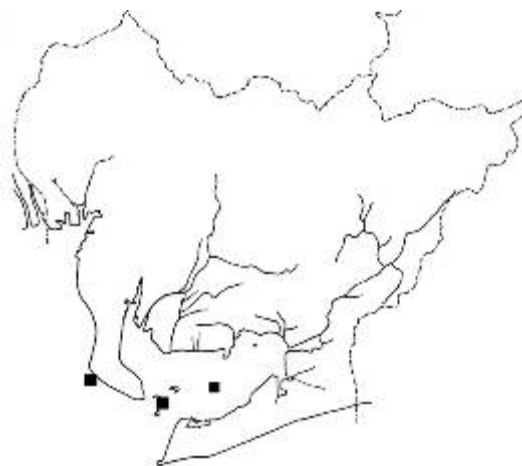
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少していて、近年生貝が採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア、インド洋。国内では房総半島以南琉球列島まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。死殻も稀で、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

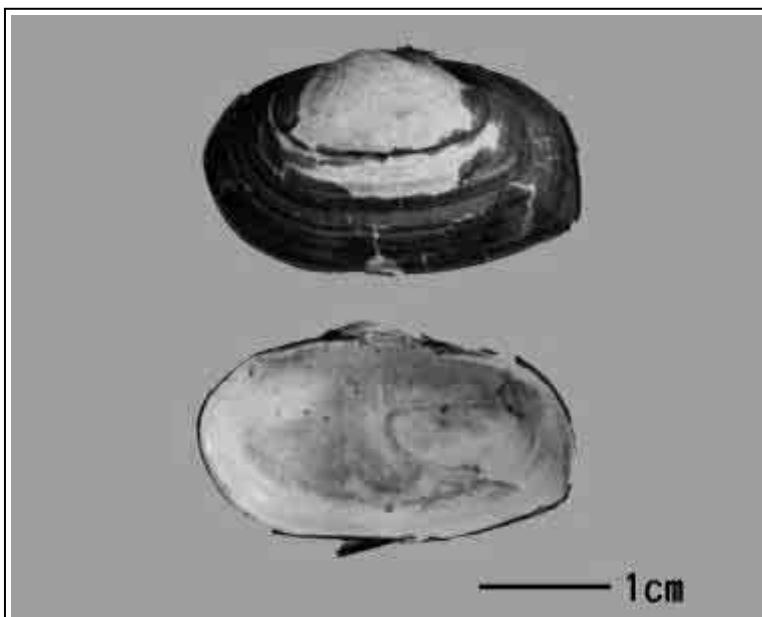
ハナグモリガイ *Glaucanome chinensis* Gray

【選定理由】

本種は内湾奥の泥質干潟に生息する種で、近年東京湾や瀬戸内海沿岸の都市近郊では激減している（和田ほか,1996）。本種は県内内湾域に広く分布していたと思われるが、地味で小型種のためか、生息状況に関する記録はない（愛知科学教育センター,1967）。伊勢湾奥の金城埠頭（現在）が埋め立て地であった頃、殻皮の残った死殻が採集された（河合秀高氏私信）が、現在県内では死殻が採集される場所も確認されていない。和田ほか（1996）では危険にランクされている。

【形態】

殻長 2cm、殻は前後に長い楕円形で、膨らみはやや強い。殻はやや薄く、黄褐色の厚い殻皮を被る。



千葉県市川市, 2001 年 10 月, 採集者不詳

【分布の概要】

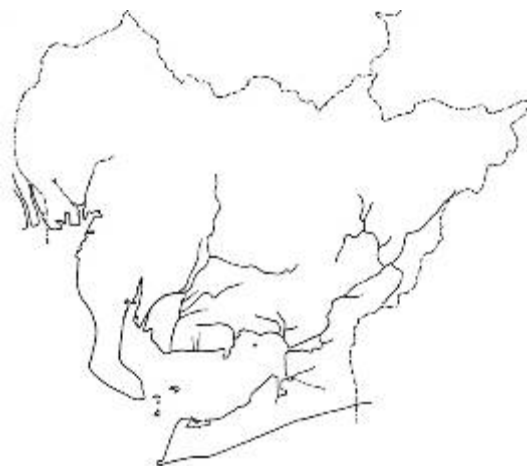
【県内の分布】

上述したように、現在生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では東京湾以南から琉球列島まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような内湾奥部の干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。現在死殻さえ採集できないので、危機的生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県（2001）では要保護生物にランクされ、葉山しおさい博物館（2001）では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

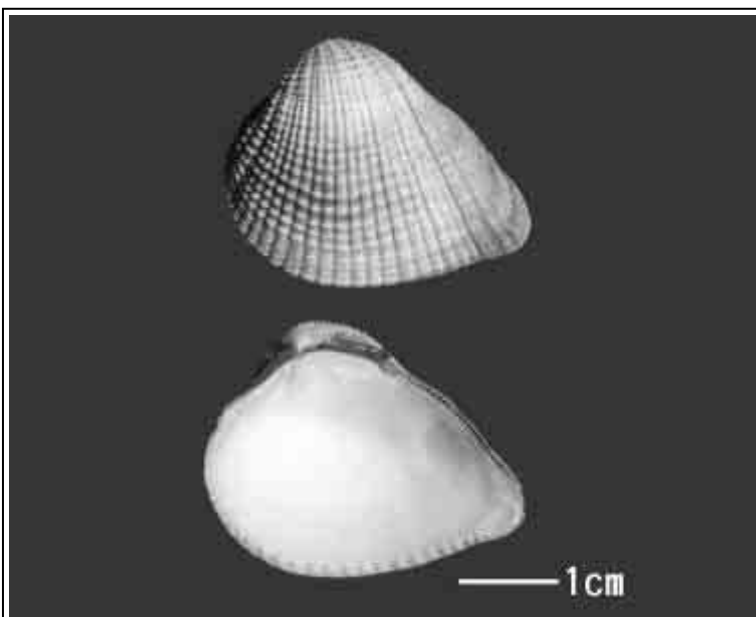
シオヤガイ *Anomalocardia squamosa* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾の干潟の高潮線付近に生息する種で、近年分布全域で激減し、現在では鹿児島県上甕島、和歌山県田辺湾生息が確認されているが、その他の産地ではほとんど絶滅している(和田ほか,1996)。近年でも三重県英虞湾には健全な個体群が保存されていることが報告された(河辺,2000)。本種は県内にもかつては生息していたと考えられるが、現在死殻すら採集できない。和田ほか(1996)では危険にランクされている。

【形態】

殻長 3cm、殻は亜三角形で厚く、よく膨らむ。前縁は丸く、後端は尖る。殻表は強い放射肋と成長脈が交差し布目状。



三重県英虞湾, 2001年7月5日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

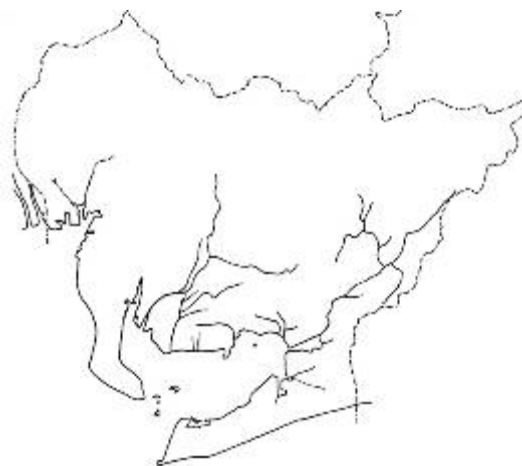
【県内の分布】

上述したように、県内では現在死殻も採集できない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋。かつては国内では相模湾以南から琉球列島まで広く分布するとされていたが、現在では上述の通りの限られた水域にのみ分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減し、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

河辺訓受, 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. かきつばた, 26: 21-24. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ウラカガミ *Dosinorbis (Phacosoma) penicilata* (Reeve)

【選定理由】

本種は陸奥湾から九州の内湾の砂泥底から記録されていたが、現在では稀な種になっていて、東京湾では近年絶滅したらしい(和田ほか,1996)。本種は1960年代には衣浦湾(知多湾奥)などの内湾奥で新鮮な死殻が採集されていたが、衣浦湾の生息地は埋め立てられ絶滅した(原田一夫氏私信)。近年では、生貝は全く採集されず、古い死殻が稀に採集される程度で、県内では危機的な生息状況である。和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。

【形態】

殻長 6cm、殻はやや角張った円形で殻質は厚いが、膨らみは弱い。殻は淡褐色で殻表には、密な輪肋がある。



幡豆郡沖三河湾水深 10-20m(東幡豆漁港水揚げ桁網漁屑), 2005 年 5 月 19 日, 木村昭一 採集(死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、死殻も稀で、生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。陸奥湾から九州に分布するとされるが、近年の生息記録はない。

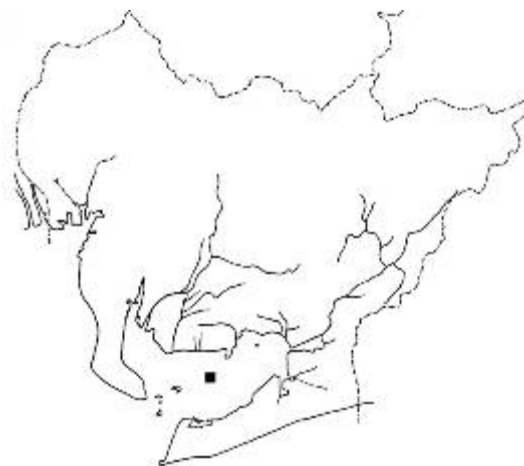
【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。現在死殻すらほとんど採集されず、危機的生息状況である。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

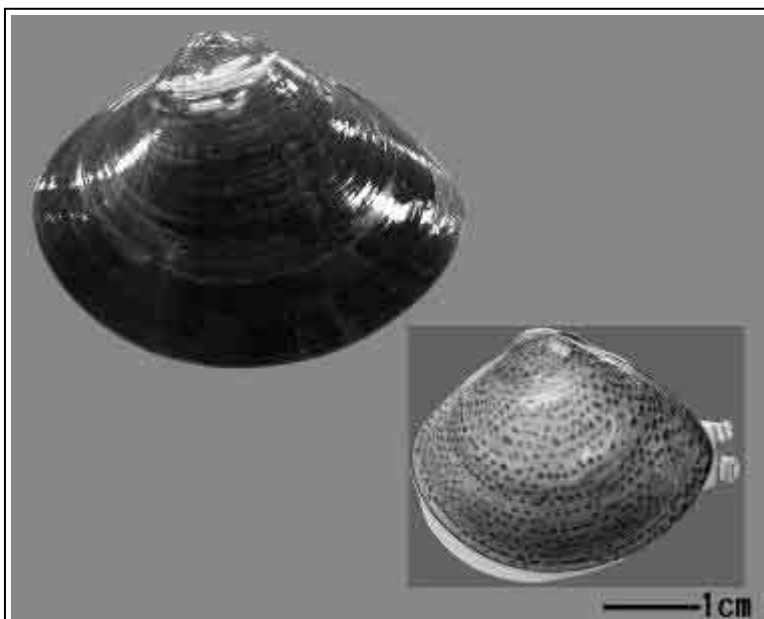
【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ハマグリ *Meretrix lusoria* (Roding)

【選定理由】

本種は内湾の河口域の干潟から潮下帯に生息する貝類として最も顕著に姿を消した代表的な種である。本種は分布全域で著しい減少が報告されており、現在瀬戸内海、有明海の極一部や天草などに健全な生息場所が残されているが、その他では非常に稀な種となってしまった(和田ほか,1996)。県内でも本種は1960年代には三河湾奥部の前芝付近、福江湾で多産し、食用にされていた(愛知県科学教育センター,1967)が、近年では死殻すらほとんど採集できない。わずかに蒲郡市三谷地先人工干潟(木村,2004,2005)と名古屋港周辺(西村俊明氏私信)でわずかに生貝が採集されている。渥美半島外洋側では殻の外見が近似したチョウセンハマグリ(在来種)が生息しているが、本種とは別種である。和田ほか(1996)では危険にランクされている。



蒲郡市三谷地先人工干潟、左：2006年9月20日、右：2004年12月24日、木村昭一 採集

【形態】

殻長8cmに達するやや大型な種。殻は丸みを帯びた三角形で、殻はよく膨れるが薄い。殻の色彩は濃い褐色から灰褐色まで個体変異が多く、模様も変異する。チョウセンハマグリは殻が厚く、腹縁は直線的で、シナハマグリ(輸入ハマグリ類)は殻全体に丸みが強く、殻の模様は褐色の稲妻模様のある個体が大部分で色彩の変異も少ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように現在県内では2地点で生息が確認されているにすぎない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部以南九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内の干潟から潮下帯は環境が著しく悪化しているため、かつて多産し食用にされていた本種の生息場所は現在ほとんど確認できない。大型種であるのに、死殻の採集できる場所すらほとんどない。

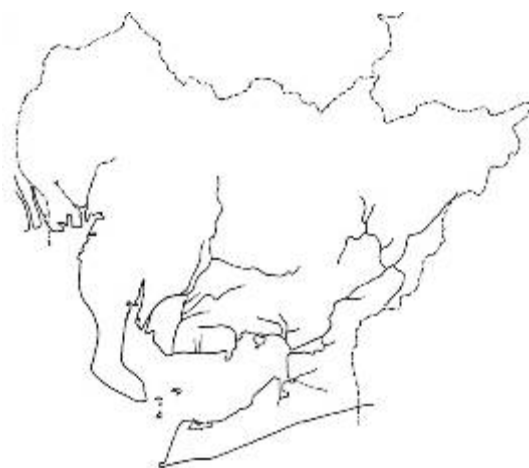
【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

水産庁・水産資源保護協会(1994)では減少にランクされ、千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

県内分布図



【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
水産庁・水産資源保護協会, 1994. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(I), 123pp.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, 30: 14-20. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, 31: 29-31. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ヒメマスオガイ *Cryptomya busoensis* Yokoyama

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖（木村,1996：木村,2000）、蒲郡市三谷地先人工干潟（木村,2004）で死殻が少数採集されたが、生貝は確認されていない。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 2cm で、殻は卵形で膨らみはやや強い。殻は白色で薄く脆い。殻の後端は裁断状で開く。



南知多町日間賀島南沖水深 10m(ドレッジ), 1995 年 3 月 15 日,
木村昭一 採集

【分布の概要】

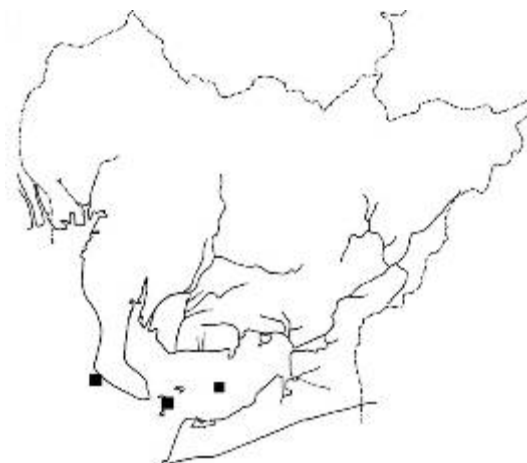
【県内の分布】

上述したように、近年全く生貝が採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。死殻も少ないので危機的生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, 30: 14-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

クシケマスオガイ *Venatomya truncata* (Gould)

【選定理由】

本種は内湾の砂泥干潟に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種はかつては伊勢湾周辺の海岸に死殻が多く打ち上げられ、生貝も普通であったが、近年20年間でその生息場所、生息数とも激減した。伊勢湾の三重県側では現在でも死殻が打ち上げられて採集される場所が比較的多いが、本県側の伊勢湾や三河湾では生貝はおろか、死殻すら採集できる場所もほとんどない。

2008年2月知多半島内海海岸で軟体部の入った本種が寒波で打ち上げられた。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約2cmで、殻は卵形で膨らみは弱い。殻は白色で薄く、殻表には細い放射線が密に走る。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在で上述の内海海岸を除きほとんど生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。伊勢湾から東シナ海まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

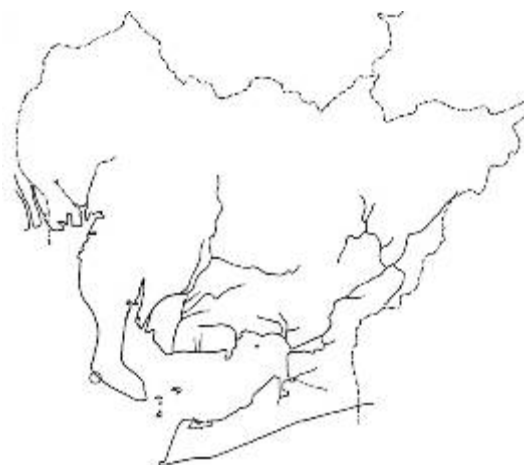
【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。現在ほとんど生息が確認されず、危機的な生息状況である。



南知多町内海海岸(伊勢湾), 2008年2月16日, 木村昭一 採集(打ち上げ生貝)

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ウミタケ *Barnea (Umitakea) dilatata* (Souleyet)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の泥底に生息する。かつては房総半島以南の内湾から記録されていたが、有明海以外での最近の記録はきわめて少ない（和田ほか,1996）。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は 1997 年 3 月三重大学実習船勢水丸のベントス調査によって伊勢湾湾口部（水深 12m）で死殻の破片が 1 個体採集されたにすぎない。無論近年生貝は確認されていない。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 8cm で、殻は極めて薄く膨らみは強い。殻は白色で生きている時はやや厚い殻皮を被る。殻の前端は丸みを帯び、後端は斜めに裁断状で両端とも大きく開く。後域にはやや長く強い棘が並ぶ。



福岡県柳川市沖(有明海), 1999 年 8 月 30 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、近年全く生貝が採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾、中国、東南アジア。国内では房総半島以南、瀬戸内海、有明海に分布する。

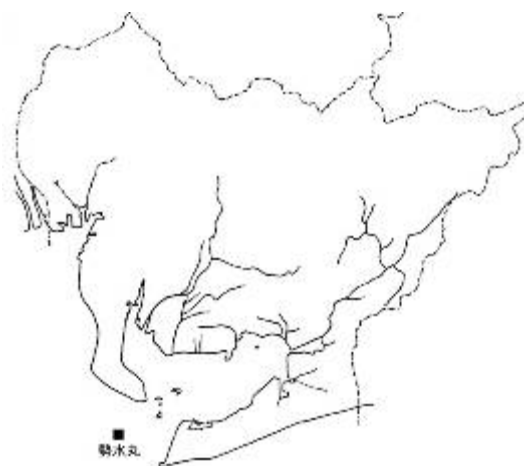
【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも著しく減少したと考えられる。近年では死殻破片が 1 個体採集されたにすぎず、絶滅した可能性も高い。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.